

2019年12月発売

## 横浜正金銀行マイクロ版 第15期

編集:武田晴人(東京大学名誉教授)

全52リール(リールNo.1341~1392) セット特価¥1,040,000

※16ミリマイクロフィルム、表示の価格はすべて税別

第14期に続く「為替管理3」と「為替部関係1-3」の簿冊142点を収録している。

### 第1集:「為替管理3」(リールNo.1341~1356)

分売価¥368,000

為替管理法関係の資料をカバー。正金銀行内での管理法に関する通知・解説が「公信」として、また法令の概説や参考資料となる帝国議会の議事録、外国為替管理法及関係法令についての法令集と並んで、行内実務家、銀行問題研究会、大蔵省・日銀担当者らによる外国為替管理法の解説書、管理法関係に関する大蔵省への申請書類の控えなど、為替取引と管理の実際が分かる貴重な資料を収録している。

### 第2集:為替部関係1-3(リールNo.1357~1392)

分売価¥828,000

為替部関係1では、金解禁後の正金銀行の為替取引に対する取組みを反映した「当半期ノ生糸手形出回り予想」(昭和5年8月18日)、為替取引現場における内外の銀行の動きに注視したメモ、為替取引の実際をうかがい知ることができる資料のほか、戦時期に日本銀行外事局から送付された海外駐在員の「財務官報告」、占領期の資料「為替問題特別資料」、「外資動員関係 台湾電力対社債貸渡問題」(昭和14年5月~16年9月)など、為替関係の実際を彷彿させる資料が多い。

為替部関係2は、為替相場や資金ポジションに関する昭和2・3年の「頭取席為替課発・着電」に続き、昭和13~17年の「為替課・部公信」は、頭取席為替課から各地支配人に宛てた制度変更ほかに関する説明・通知が多いが、なかには日中戦争期の厳しい外貨事情を各店に知らせる資料や「内地満州各店ニ於ケル対三井物産株式会社外国為替取引高」などの興味深い資料もある。

為替部関係3は、昭和5~12年までの「為替課本店支配人宛」のほか、大正9年に破綻を来した高島屋飯田株式会社に対する信用取引割当についての通知や、大正13年10月13日付けの頭取席内国課から本店支配人席宛の横浜生糸株式会社生産取引に関する報告が含まれている。

発売:丸善雄松堂株式会社